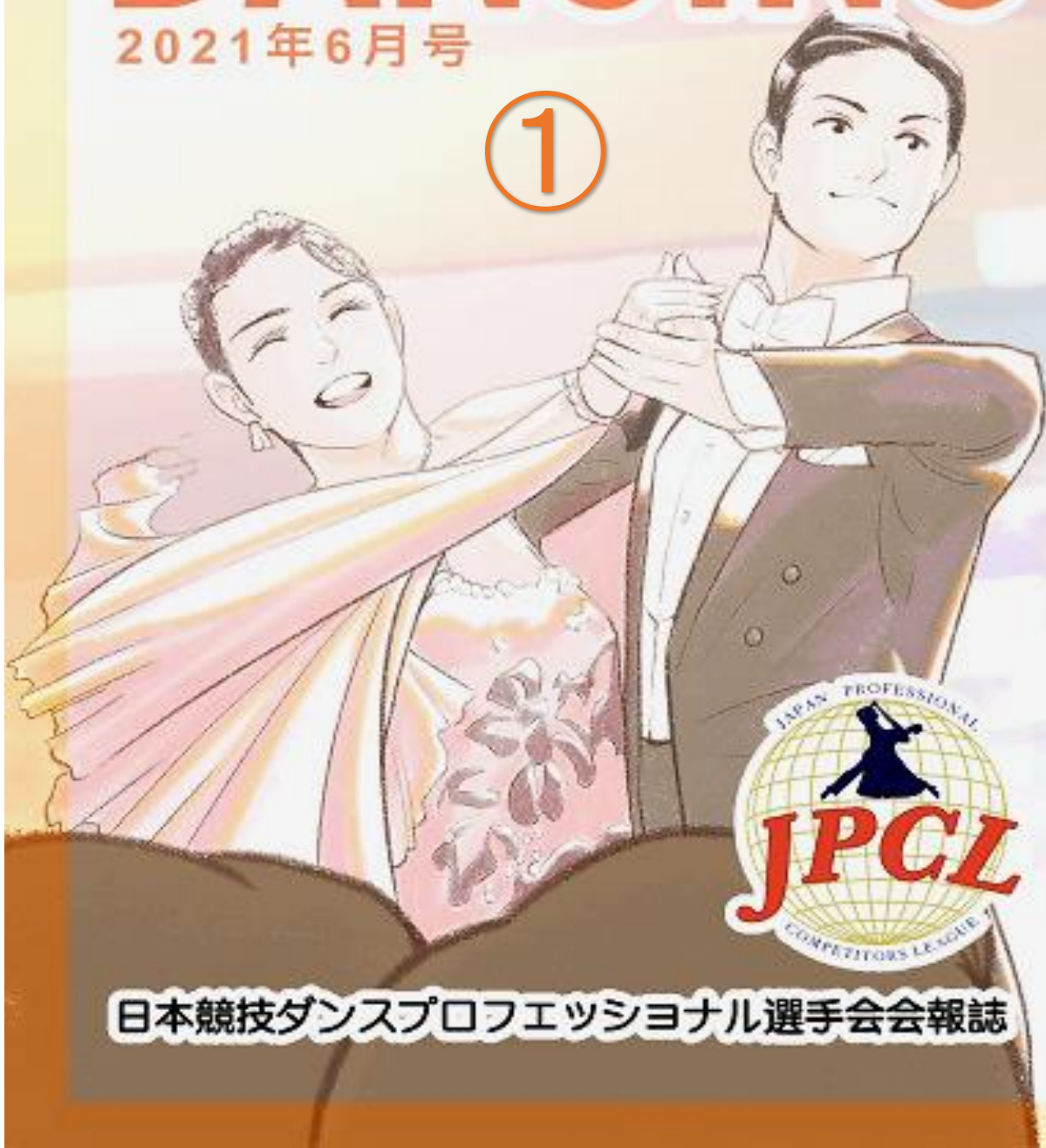


DANCING

2021年6月号

①



日本競技ダンスプロフェッショナル選手会会報誌



2021

DANCING 6月号

Japan Professional

- 独立
- 選手生活の向上
- 選手の権利

Competitors League

CONTENTS

P2 第277回 定例理事会議事録

P5 第59回 ABDC会議議事録

P9 コラム202 『禁酒法』


P10 コラム～温故知新～

P12 JPCL CUP2021を終えて...

P17 各部紹介

P19 床声人語#010 ■先生はウソつき？

P21 協賛紳士録



理事会議事録

■ 第 277 回定例理事会

日時 令和3年5月13日(木) 22:30～

場所 ZOOMで行いました。

1. 各部報告

全国事務局

- ・通常の連絡業務を行いました。

総務部

- ・通常業務を行っております。

財務部

- ・会報誌5月号製本代、会報誌送料、雑費の支払いをしました。

渉外部

- ・日本インターのエントリー業務を行いました。

競技部

- ・特にありません。

技術部

- ・海外コーチアの講習会を企画しています。

広報部

- ・会報誌5月号を作成しました。HPの更新を行いました。
- ・メール化会報誌の広告紳士録掲載の連絡が13件(継続8件、解約5件)ありました。

配券部

- ・5月23日の競技会の無料招待券はお申し込みは無しです。
- ・6月27日のJCF全日本のチケットを選手会で販売することになりました。担当は森です。

事業部

- ・ブログ、SNSの更新を行いました。
- ・フェイスブックにJPCLカップの写真(ダンスビュー様より提供)もアップしました。

監査

- ・特にありません。

2. JCF 理事会報告

・5月7日、会長としてJCFを牽引された毛塚鉄雄先生が永眠され、理事会出席者で黙祷を捧げました。

・3月14日ユニバーサルと4月18日東部日本の収支報告があり、どちらも黒字となりました。

東部日本の配信は、約1万2千人の方が視聴してくれたとのこと。

・5月23日の東京選手権は、感染対策に則って、無観客試合で行います。

・6月27日JCF全日本選手権について

アマデモ8組

現在、JPCLからのチケット申し込みが1名のみ

チケット販売にご協力をお願いします。後、広告の協力もお願いします。

当日は、日帰りできるタイムテーブルとなっております(東京朝6時ですと7時に宇都宮着、9時競技開始、競技終了後も、新幹線に間に合うそうです)

・6月13日全関東選手権

日本インターと重なっておりますが、出場をお願いします

・9月19日ギャラクシーについて

ギャラクシーの選手権は行いますが、ワールドダンスフェスティバルと併催競技は未定、来月の理事会には、形にして報告します

・NDCJ

4月22日管理委員会

10月に予定していたショーダンス選手権の辞退が承認

バルカーカップに観客を入れて行いたい。バルカーに申し入れをする

5月23日の競技会にNDCJ-Uの選手の申し込みがなかったのでJCFの審査員のみで行います

・WDT

6月20日に試験とコンgressを行います。講師天野博文先生(12時半より)

・JASRAC 団体登録について

JCF20 教室、担当は松浦のぞみ先生になります

・2021 後期日程予定

9月5日 JATD 杯都立産業台東館 6F

9月19日ギャラクシー

10月3日東京選手権都立産業浜松町館

11月3日バルカーカップ

11月21日東部日本都立産業浜松町館

浜松町館の試合は新しいヒールカバーを着用(ヒールキャップはダメ)

3. NDCJ 報告

- ・6/27 の統一シニアのジャッジが JCF 3、JBDF 3、NDCJU 2 人選出されます。
 - ・統一ショーダンス中止になりましたが、今年行われる可能性も出てきました。
 - ・アマチュアのプロ行為をしている方がいたので注意した。
 - ・ラテンのショーダンス世界選手権に日本人の審査員は派遣しません。
- 1 1 月ボールルームのショーダンスには派遣の予定
- ・現在 NDCJU 1 2 人入りました。


4. ABDC 報告

- ・5/4 日比谷フェスティバルは無観客で配信された。
- ・ABDC の影響力を高めるために各団体のファイナリストの先生に ABDC の運営委員会に入ってもらおうよう声をかけるかもしれません。
- ・日本インターで日本在住の外国人審査員が 2 人入ります。

5. その他

- ・ブラックプールのチケットについての文章を回します。シート、エントリーは個人で手配してください。
- ・来年のブラックプールのチケットを JCF の方に購入しないでもらう → 承認
- ・JCF CUP 今回日帰りができるので補助金は出しません。
- ・JCF CUP の補助金について、当日配るのは配る選手に負担がかかるので来年以降は担当者で連絡をして後日振り込み様にする。→ 承認

議事録署名

溝上正幸 

議事録署名人：田原健二

書記：花田論

議事進行：森脇健司

参加者（出席者☑、委任者に委）

最高顧問 □ 稲川素子 顧問 □ 山田博明 □ 富田圭潤

顧問弁護士 □ 正田光孝 顧問税理士 ☑ 池田奈智

☑ 森脇健司 ☑ 小林恒路 ☑ 樋口暢哉

☑ 正藤隆史 ☑ 三信真樹 ☑ 寺門駿 ☑ 花田論 ☑ 木下聡明 ☑ 賞名強

☑ 西尾浩一 委 近藤誉仁 ☑ 朝増拓哉

☑ 山崎博道 ☑ 松岡佑紀 ☑ 加治屋貴士 委 加藤義人

☑ 上脇友季湖 ☑ 毛塚陽康 委 清水基允 □ 邵帥 ☑ 橋本悠

☑ 末安祐一郎 ☑ 小野晃歳 ☑ 菅野純代 ☑ 石川浩之 ☑ 新井健伊稚 ☑ 田原健二

☑ 大下修弘 ☑ 井川まゆみ ☑ 片山雄暉

JBDF北海道 佐藤圭助 秋山真悟 JBDF中部 山本章緒

JDC中部 阪野清人 JDC西部 鈴木肖生 JDC九州 倉地宏治

【各選手会からの現状報告】

●EJBDF選手会長 小林恒路より

クラス戦でコロナ対策について、選手がどのような状況なら出られるのか問題になりました。選手が職場で感染者が出た場合、本人が濃厚接触者ではなく、PCR検査の結果が陰性であっても出場不可ということがあり、当日出場を拒否された選手が1名いました。日本インターでもそのような対応がとられるということで

対応が厳しすぎるのではないかという意見もあり、担当の保健士さんと後日話をする予定です。

4/18に東部プレミアムボールが無事開催されました。

●JCDC会長 森脇健司より

3/14に浅草にて大会が開催されました。

4/18に関東ダンス選手権が開催されました。

今のところ感染者の報告はありません。

5月9日、6月6日、6月27日にも競技会が予定されています。

●JPCL会長 樋口暢哉より

4/4に選手会パーティーJPCL CUPを行いました。パーティーで感染者が出たということはありませんでした。

4/18に東部日本戦が開催されました。

【各部報告】

●経理部（正藤隆史部長）

通常通り業務を行いました。

●総務部（花田論部長）

理事名簿、東部運営委員名簿を作成しました。

今後の連絡で必要な際にはお使いください。

●統括部（西尾浩一部長）

前回決定されたABDCの連絡窓口を作りました。各上部団体からの連絡は統括部と執行部に転送され確認が行なわれます。

●企画・事業部（部長）

フラッシュモブについて日比谷フェスについて

振り付けは加治屋先生にお願いしました。

緊急事態宣言に伴いフラッシュモブは動画配信の形になりました。

無観客になった為マスクを着用しなくて良いことになりました。

ソロの出演者は着用しませんが、モブ出演者は任意ということで承認。

DANフェス!2021松岡佑紀実行委員長より

文化庁からの助成金はオンラインでは適用されない。600万円の助成金の可能性があるが、箱を借りてショーをするような形式でなければいけない。

11月の公演という場合、6月12日にならないと応募できない。

最初の申請が通ればほぼほぼ問題ないのではないかという読み。

ショー形式が不可能な場合は昨年同様オンライン形式に切り替える。

第一候補が11月7日（日）

助成金を使えるのであれば出演者にある程度のギャラを支払うこともできるのではないか。

助成金を使うにあたり年内であれば問題ないとのことなので、キャスト集めなどのこともあるので、日程についても柔軟に考えていきたい。

●渉外・広報部（部長）

部内で仕事を割り振って進めていきます。

●監査（監査役）

特にありません。

【その他】

●ショーダンス選手権について

音楽の著作権に関する問題で、今後の開催について検討していかなければいけない。

・完全クローズで順位だけつける

・音楽を編集しない（フェードアウトのみ）

選手はショーダンスについてどう考えるかNDCJから意見を求められた。

主催者が何を大切に開催するのか

世の中に良いものを発信していくことを考えるのか、クローズされた業界内の興行として考えているのか

世界ショーダンスは個人オーガナイズ。団体で主催するよりも著作権問題で目をつけられにくい。

この手の話になるとお金がないという結論にいつも帰着する。

理想論としてはテレビ放映に繋げるなどして、お金の問題をクリアする方向性も頭に入れて話して欲しい。フィギュアスケートなどはむしろ音楽を使ってもらいたいという立ち位置になっている。

➡選手としては無観客での開催は望まない

●災害の義援金に関して

JBDFより、福島で被害に合われた先生に、ABDCにプールしてあるお金の中から少しでもお届けできればということを確認をしたいとのこと。

→プールしてあるわけではないが、多少は出すことができる状況。その都度話し合っ決めていくということになっていたの、被害状況を確認して執行部・経理部で協議をしていくということを進めていく。

他団体にも被害者がいないか確認する。

●ファイナリストのABDC参加について

選手として競技会を自由に選んで出ていくことができるようにと考えた時に、執行部だけで意見を持つていくのは大変な状況がある。

各団体のファイナリストにABDCに参加していただき、まとまって上部団体に声をあげていくことはできないだろうか。

発言した時に「一人の意見」として捉えられてしまうことがある

オブザーバーとして参加しているため、発言を求められた時のみ意見ができる状況

ファイナリスト、チャンピオンクラスが入っていることで、より発信力も高まるのではないかと

NDCJの会議に出席する人間はこれまで通り3名だとしても、ABDC運営委員会の現場でトップクラスの選手にも意見してもらうことで、より選手からの声が強くなるのではないかと。

そもそもそのような立場の選手がABDCの運営委員に入っているべき。

設立当初は各団体の競技会に選手が出場できるようにということへの熱があり、それがある程度達成された後に振興事業の方が強くなってしまい離れた感覚の選手も増えたのではないかと。

今一度競技会への出場ということについて要望を出していくにあたり、橋本先生や増田先生の名前があることでより強く意見が出せるのではないかとという期待がある。

現状各選手会から10名ずつ出向メンバーとして集まっているが、結束力を高めるためにもトップの選手にも参加してもらうのは良いのではないかと。

NDCJの役員にとってもトップ選手の存在があることで空気が違うと思うので、ぜひメンバーに加えてもらいたい。

ABDCの存在意義、価値観を高めるためにトップ選手が入っていることは良い。あとはどのような基準で選び、どのような名目で入れていくのかを決められれば良いのではないかと。

トップ選手は入るものだということが当たり前になっていた方が良い。

振興事業はNPOに任されているので、改めてABDCが競技選手の立場・権利を守るための組織として、トップ選手も入っていく状況に出来ると良い。

ABDCは手続き上は選手会という組織で入っているもので、有志の個人の集まりではないので、NDCJが個人として扱うのは筋が違う。

現状はNDCJからの扱いとしては、執行部が各団体選手会の連絡係のような感覚がある。

以前はそのようなことはなかったが、今回の問題が起きた後からそのような感じになっているように感じられる。

それぞれの立場はあるが、ABDCはプロ競技選手の集まりとして、選手の主張・意見を言えるようなものでありたい。

各団体のトップ選手にも出向メンバーに入ってもらうことで承認。詳細は執行部で詰めていく。

理想としてはABDCは選手の競技に関して上部団体に物申せる唯一のプロダンサー選手会であり、選手は個々に競技会やクラス発行をする団体を選べるようになること。

●NDCJ管理委員会報告

6/27に統一シニアがある。

JBDF3名 JCF3名 NDCJ/U2名のジャッジ編成。

NDCJ主催競技会も同じ編成。

NDBのパーティーでショーダンス選手権を行う予定だったが、著作権など多くのクリアしなければならない問題があり、開催を見送った

平日無観客、配信なし。ノーマルな曲で編集、スピード調整なしで行うなどこれから詰める必要がある。

統一10ダンスはまだ日程がコロナの状況で確定しない

アマチュアのプロ行為について、1名に注意を行なった。藤井選手にも行うかも

世界ラテンショーダンス、ボールルームショーダンスともに日本からの審査員派遣を見送った

世界ボールルーム選手権には日本から1名審査員を派遣する予定だが、今後の状況を見ていく

●NDCJ競技委員会報告

日本インターの海外審査員は、日本在住の審査員だが、2名ともWDOに登録している

昨今のWDC、WDO問題の絡みでそれは良いのかと質問したところ、契約した時点では団体の問題が生じていなかったの、そのまま進めたいとのこと

→WDCとNDCJの公認競技会にWDO審査員が入るのであれば、選手個人はまだWDOには登録していないので出場できるのではないかという見解になると伝えました。

2019年の世界選手権の代表権について、現在権利を所有し、JDCに所属している選手について質問したところ、来月の会議まで待つてほしいとの返答

●NDCJ管理委員会出向者選出

5月24日(月) 14:00から

小林, 樋口

森脇(16:00から出席)

今一度森脇の14:00からの出席についてNDCJに要望を出す

次回会議予定 5月26日 22:30よりGoogle Meetにて

議事録署名人

田原健二

『禁酒法』

柳田 哲郎

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、4月25日に東京、大阪、兵庫、京都の4都府県に3回目の緊急事態宣言が発令されました。

1月に発令された前回とは異なり、居酒屋等で酒類を提供しないよう要請するという、より強い自粛を求める内容になっていました。

しかし「居酒屋を営業してもいいけど酒は出さな」というのは「サッカーをしてもいいけどボールは使わない」「プールで泳いでもいいけど水は入れない」と言っているのと同じであり、こんなことを考えつく連中はどこまで頭が悪いのか私には想像もできません。

アメリカでは1920年から33年までの12年間、禁酒法が施行されました。

この法律は飲酒のためのアルコールの製造販売、輸送を全面的に禁止していましたが、飲酒自体は禁止されていませんでした。

そこで、合法的に酒を入手できなくなった人々は非法な酒を飲んだのです。

秘密の酒場が繁盛し、密造酒が高値で売買された為、ギャングがそこに目をつけました。

特に「暗黒街の帝王」と呼ばれたアル・カポネ（実在の人物です）はシカゴで市長や警察を抱き込み、密造酒の販売で莫大な利益を上げ、抗争相手には容赦なくマシンガンを乱射しました。しかし、32才の時に逮捕されそのまま刑務所の中で48才で死んでいます。

今回、緊急事態宣言を出して居酒屋での酒の提供を禁止しても、路上等で飲む人が増えただけで全く効果はありませんでした。

100年前のアメリカの禁酒法がどうだったかを見れば、禁酒法もどきの要請をしてもこうなることは分かり切っていたはずで

尚、路上で飲酒している若者達を見て「コンビニ等での酒の販売を禁止すべきだ」と主張しているバカな連中がいるようですが、そんなことをしたら反社会的勢力が酒を密売して大儲けするだけに決まっているのです。

病床数が逼迫して医療態勢が崩壊しそうだから緊急事態宣言を出したとのことですが、その原因は人々が外を出歩くからでもなければ、酒を飲んでいるからでもありません。

大都市をロックダウンして人の流れを完全に止めたヨーロッパ各国で日本の数十倍もの感染者が出ているのを見ても、外出自粛はコロナの予防に全く役に立たないのです。

日本は病床数が多い上、ヨーロッパ各国の数十分の一しか患者がいなのに病床が逼迫しているのは日本医師会のせいなのです。

「コロナ患者を受け入れると他の患者が来なくなって儲からない」と考えて、日本医師会を構成する大多数の中小の病院がコロナ患者のための病床の提供を拒否しているのです。

最近、入口に「熱のある方はご遠慮下さい」と表示して、コロナ感染の可能性のある患者を拒否する中小の個人病院が多いようです。

しかし、こんなバカなことはありません。熱があつたり、具合が悪かつたりするから病院に行くのであり、それを拒否する日本医師会のせいで病床が逼迫しているのです。

その責任を国民に転嫁するために、出歩いているやつが悪い、酒を飲んでいるやつが悪い等というウソを垂れ流しているのです。

「居酒屋で酒を出さな」という禁酒法もどきのバカげた要請は全くの無駄であり、今すぐ撤回すべきであると私は考えています。



新告知温



初の派英を振り返って…

初渡英の時のことを書いてみようと思います。

今考えてもあの時の私達は計画性の無さというが、行き当たりばったりだった、
と思っております。

この私達を反面教師として、皆さんにお役に立ててもらえたらと思います。

A級を決めた次の年3月からの初渡英！

3月中旬から全英選手権が終わるまでの約2ヶ月半！

それなのに、取れていたレッスンはアンドリュウ・シンキンソンの1レッスンのみ。

(当時はアンドリュウも現役選手)

その当時も人気あるコーチの予約は一年以上前からでないとレッスン取れなかったのです。

どうにかなるさ、なんとかなる！と、私達は出発しました。

というも、

私達には頼りになる先輩山口先生や村上先生がいてくれて、自分達のレッスンの時に
キャンセルが無いか聞いてくれたおかげで、運良く一週間に何回かレッスン入れられることが
出来ました。あまりにも頼りなかったのでしょうか。

そういえば、頼りない私達に何年後に、何故かフィンランドの選手が、
自分達のコーチーをお願いして私達のレッスンを入れてくれたこともありました。

頼りない私達でモイギリスでは甘えが出来てしまわないように日本の選手達とあまり繋がらない
ようにしようと決意しました。ライバルは海外の選手。

あえてたいして英語も喋れないのに、厳しい環境に身を置きました。

まずは生活するところから。

私達が5年くらい住んでいたフラットは、セムリー5番フィンランドの選手が管理人で、多い時は
色んな国から来たダンサー5~6カップル10人以上で生活してこともあり、友達になる時も
ありましたが、ヨーロッパの選手達は二週間くらい滞在して帰国してまた大会前に戻ってきたり
入れ替わりが激し過ぎて、だんだん恐怖を感じ部屋に閉じこもったこともありました。

トイレとバスルームは一つしか無かったので、あまり長時間使用できないし、順番待ちで争って
大変だったことが懐かしいです。

何度が鈴木は二軒隣のセムリーという練習場のトイレに走って行ったことも。笑

キッチンも一つしかないけど、争いは少なく1日3回もご飯用意してるのは殆ど私達だけでした。

一緒に生活する選手はプロは少なく、殆どアマチュアの選手ばかりで、アマチュアなのに、
イギリスでダンスのレッスンに集中出来て良いな、日本でいえばプロみたいだと思っていました。
その当時プロでお金を稼げるのは、チャンピオンクラスでないと、ダンスで生活出来ないの
で、ターンプロしないで色んなお仕事しながら(アルバイト?)お金貯めてレッスンを受ける
に来ていたのです。

ヘアカット、ネイリスト、掃除や何でも屋?そういう意味では日本では、プロで別に
チャンピオンでなくてもモダンスでお金は稼ぐことは出来ましたから、恵まれていましたね。

あ！一番私達がイギリスでのダンス生活で充実感を得られたのは、試合に出場したこともですが、何を言っても自分達の練習です。

朝の日本人が多い練習場所や、その当時は日本人専用練習場ラトリッシュにも殆ど行かず、朝はめちゃくちゃ早起きして7時にグラフトンボールルームで数組の貸切状態で練習していました。

夜のプラクティスナイトも殆ど毎日のように行きました。
グラフトンボールルーム、スターライト、セムリー、名前忘れたノーバリーにあった練習場。
私達にとって夜のプラクティスナイトが1番の刺激でしたし、スピード感や色んななんとも言えない空気感が私達をインブリーブさせてくれました。

ある日のスターライトプラクティスナイトでとにかく他のダンサーと違い過ぎてよく動いて目立ってた彼に釘付けでしたが、その年ライジングスター準優勝したルカとアマンダだったことは後で知りました。（優勝キムリーゲルと同点だったとか…）

フラットの近くのセムリーはどちらかと言えばラテンがメインの練習場でしたが、近いのでたまに行きましたが、そう広くないフロアでよくぶつからないなあと凄いスピードで踊る感心するけど生意気な子供達が私達を馬鹿にするようにフロアを飛び回って踊ってましたが、後々彼らはチャンピオンやファイナリストに。
大人になるととっても良い人になっているところが笑えます。

私達を成長させてくれるが

どん底まで突き落とす試合が
全英選手権までに5.6個ありましたが、とにかく出続けました。
ハーツボール、English open、Dance & Listen imperial、National
始めは手応えあったような気がしてましたが、大会に出れば出るほど結果は悪いし踊れなくなるし、逃げ出したくなりました。

渡英のために教室も休ませてもらってるし、生徒さんも応援して待っていてくれるのに、もう情けなくなる日々。

どうにか気持ちを切り替えて、先輩山口先生の先導で、初渡英の私達とこれまた初渡英の嶺岸組と3台繋がりながらブラックプールへ！
初めて全英選手権会場のウインターガーデンに足を踏み入れた時の感動は今も覚えています。
やっとここで踊れるんだ！と。
なんとも言えない感情の昂りで、ここで踊ることが出来る幸せを改めて覚え、ブラックプール本戦は思いっきり踊ったことだけ覚えています。
ビギナーズラック！！

お付き合いありがとうございました。

スズキイチロー・ダンスアカデミー
鈴木愛弓